

# 町農産物で“健康茶”

## 中泊町と弘大 商品化向け試飲会

中泊町と弘前大学は22日、町で取れる農産物を使って、町内の企業と共同開発しているお茶の試飲会を町役場で行った。農産物に健康向上機能の付加価値を持たせるのが目的。ハトムギやヨモギ、キクイモを使った4種類の試作品を濱館豊光町長らが飲み比べ、商品化へ向け意見を出し合った。

取り組みは、町の新しい特産物を作ろうと同町の建設業「竹内組」が弘前大学と2020年に共同研究契約を結んだことからスタート。加工を竹内組が担い、お茶の成分分析や機能性の評価は農学生命科学部の前多隼人准教授が行ってき

た。22年に町が同大学と包括連携協定を結んだことか



町産の農産物から作った4種類のお茶を飲み比べる濱館町長（中）

ら、現在は3者で協力して開発を進めている。

試飲会には町や竹内組、弘大の関係者ら約10人が出席。前多准教授が各作物をブレンドするなどして試作した4種類のお茶に含まれるアミノ酸の量と、期待できる健康効果を説明した。前多准教授によると各お茶には、疲労回復や血流改善などの効果が期待できる成分が含まれているという。

濱館町長はお茶を味わいながら「それぞれ味わいが全然違う。茶葉の状態で販売して、健康状態に合わせて自分でブレンドできるものを作ってもいいかも」と意見を述べた。

竹内組では今後、さらなる改良と成分分析を進め、商品化を目指すとしている。

（渋谷ひな乃）

上記の画像は、当該ページに限って“東奥日報”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。